

協働の輪

ひろげよう



市民と行政の連携や協力があれば向日市はもっと輝きます

コラボレーション研究所(以下コラボ研)が発足して1年半が経ちました。しかし市民の皆様が抱く協働に対する意識が、まだまだ低いように感じています。やはり市民の皆様と行政などで正確な情報共有が成されていないことなどが大きな要因ではと考えます。

研究所では、活動を通じて、市民の皆様へ「協働によるまちづくり」について親しみをもってもらい、一緒に考えてもらえれば、「広報むこう」に特集ページを掲載することにしました。このページも、研究員(市民・市職員)と行政で編集しています。

なぜ“協働”が必要なのか?

「協働」とは、いきいきとした心の通った向日市のまちづくりを進めるため、市民(個人・団体)や、行政、企業などが「自分たちで向日市をいまいちにしていくんだ」という自覚を持って、お互いに協力していくことです。

「地域の催しや行事に参加する方法は?」「活動していても人手が足りない、もっと活動場所が欲しい」「もっと情報共有できれば」などの市民の声を聞きます。市民のまちづくりへの関心や主体的な参画を促し、市民、行政、企業などが協働して、まちづくりに取り組めば、「向日市」が、さらに良いまちに発展していくのではと考えています。

「協働の取り組み」が始まっています...

市内のあちこちで市民と行政による新たなまちづくりが芽生えてきています。学校内をハトールされたり、道路の美化活動をされたり、図書館や文化資料館で

施設のボランティア活動をされたりと、市民(個人・団体)や企業が自発的にこのまちを良くしていこうと活動されています。

私たちはこのような芽生えを大切に、さらなる発展を目指していかなくてははいけません。

コラボレーション研究所では...

公募で選ばれた市民と市職員の10人が研究員となり、ほぼ毎月協働によるまちづくりを進めていくために議論しています。

具体的には、活動拠点となる「まちづくりセンター」設置の準備や、協働していくためのルールづくりについて検討しています。

このページでは研究所の活動報告や今後の抱負を「あゆみ」と「これから」として紹介します。市民の皆様へその活動を通じて、「協働によるまちづくり」に少しでも興味を持っていただけることを願っています。

あゆみ

いきいきと心の通ったまちづくりが、一歩ずつ前進しています!

「コラボレーション研究所」発足

「協働によるまちづくり」に対する向日市の考え方や方策などについて市民と職員で議論する場としてスタート。



第1期研究員の集大成である「(仮称)向日市市民協働促進基本方針」への提案を作成

合計14回に及ぶ議論を重ね作成した提案書を市長へ提出。



コラボ研、新しいメンバーで2年目へ

- ①「まちづくりセンター」設置に向けた機能、運営の検討
- ②「広報むこう」のあり方を検討。
- ③「(仮称)向日市市民協働推進条例」のあり方の検討など、具体的に研究



平成16年7月

平成16年11月

平成17年3月

平成17年7月

平成17年11月

「仮設まちづくりセンター」を設置

向日市まつり会場に設置。向日市の地図を前にして、「まちづくり」についての意見、要望を来場者に伺った。



市が「市民協働促進基本方針」を策定

コラボ研の提案を尊重した「市民協働促進基本方針」を市が策定。この方針では、市民、企業、行政の役割や右の4つの方策を掲げています。

必要な方策

- ①情報を共有する
- ②交流を促進する
- ③結びつきをコーディネートする
- ④何でも相談できる窓口を提供する

向日市まつり会場にコラボ研のコーナーを設置 広報部会が情報誌「むこうまちルネサンス」を発行

「まちづくりセンター」についてや「むこうまちルネサンス」など広報についてのアンケートを実施。広報を研究する一環として、企画、編集を研究員と行政が協力し情報誌「むこうまちルネサンス」作成。



これから どうしていくの?

「主役は市民。私たちの力でより良い“向日市”を」

「まちづくりセンター」 “目指すは市民と行政の橋渡し”

「向日市まつり」で実施したアンケートで、市民が「まちづくりセンター」に対して抱く「生の声」が得られたことは、議論を進めていく上で貴重な財産となりました。

アンケート結果とご意見、ご要望を見ると、まちづくりセンターは向日市の歴史を大切に、個性豊かなまちづくりを進めるため、市民と行政との協働を理念とした市民参画の拠点となるべきで、その機能としては、

- 情報の蓄積・集約・発信の役割を備え、市民の悩み事に対応できる
 - 市民の声が市政に反映される場所として、市民と行政とのパイプ役になる
 - 市民参画のきっかけをつくる
- などが位置づけられます。

会社でいえば、総務と広報、またはお世話係と発信係です。



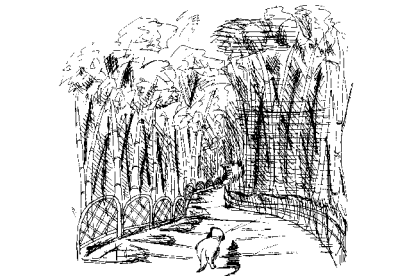
大切なことは、気軽にどんな人でも利用できるということで、市民が楽しむために来られるセンターになれば、より素敵なことだと思います。

育児のこと・教育のこと・老後のことなど、世代を超え、また、その世代での悩み事や提案にも柔軟に対応できること。やがてはそれがきっかけで、まちのことを考える輪が広がるように、誰でも来られる市民の方々に親しまれ、愛される楽しいセンターになるように、これからも議論をしていきます。

「(仮称)向日市市民協働推進条例」 “向日市らしさを生かして”

現在「向日市市民協働促進基本方針」にある4つの方策を具体的に進めていく上でのルールを検討しています。

「まちづくりセンター」のアンケート結果にもありますように、多くの市民が後世に伝えていきたいと思う「歴史・文化」や「自然・環境」など、「向日市らしさ」を生かした協働を進めていくにはどういったことが必要、あるいは望ましいのかなど、具体的な内容を含めて今後も研究をしていきます。



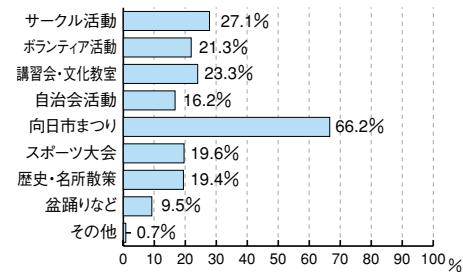
気になる市民の皆様の声は

まちづくりセンターについてのアンケート結果

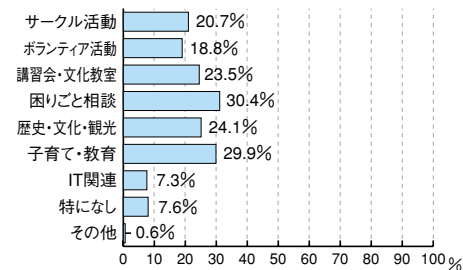
実施方法:昨年11月、向日市まつりの会場での呼び込みにより記入していただき、回収しました。(標本数536人)

主な結果

■市民の交流の場として望むもの(複数回答)



■相談したい内容(複数回答)



その他の結果

【情報入手の方法(複数回答)】市の広報:73.3%、閲覧板:33.6%、新聞:28.7%、ホームページ:20.5%

【子どもたちに伝えておきたいこと(複数回答)】自然・環境:43.1%、道徳・こころ:42.9%、教育・しつけ:41.2%、歴史・文化:40.3%、昔遊び:39.4%

【利用しやすい時間帯】休日:62.7%、平日の午前:23.7%、平日の午後:20.5%、平日の夜間:13.4%

情報誌「むこうまちルネサンス」アンケート結果

向日市まつりの会場で配付アンケート実施(47件回答) ご意見は...

「活動するだけでなく市民への情報発信を工夫すべき」「字が小さくわかりづらい」「堅苦しく世代を超えて楽しめる工夫が必要」「写真も多く! 写真をカラーに! 地図をつけてほしい!」などのご注文もいただきましたが、「協働という視点から自分たちのまちを見つめ直していく良い提起と感じた」「向日市についてより知ることができた」など新しい取り組みを評価していただいたようです。また、向日市の史跡・文化についてもっと情報を得たいというご意見が多々ありました。

市民や向日市で働く人が向日市の良さを知り、わがまちを誇りとし、子どもたちに伝えていけたら素晴らしいと思います。市民が「わがまち自慢・わがまち再発見」できるような機会があればよいと思います。

声

向日市まつりに参加して

向日市が私の「故郷」



持明院 由子さん (京大外国語大学4年生)

現在大学4年生の私は、高校の3年間と併せてもう7年間、京都市の自宅から向日市(むこうまち)にあるフリースクールに通っています。

指導を受けている先生から声をかけていただき、向日市まつりのコラボレーション研究所のコーナーに足を運びました。世代を超えてたくさんの方が「自分のまち」のために努力する姿はとても新鮮で、初めて「まち」を意識しました。

一緒に参加した韓国からの留学生も「まちづくり」が新鮮に映ったとのことでした。

「お前の故郷は向日市(むこうまち)だ」と口癖のように話す先生の言うことが今回参加して少しはわかったような気分です。

人間でいる人にとっても、私のように通う人間や来日して少し滞在する外国人にとっても「故郷」になるような「まち」になることを願いますし、お手伝いができることあればこれからは是非参加させていただきたいです。

編集後記

コラボレーション研究所が「広報むこう」の協働による編集ページを作成するのは、初めての取り組みです。いつもの広報と少し違った印象を受けられたでしょうか。

「向日市まつり」で行ったアンケートで得られたご意見をもとに字を少し大きくし、写真やイラストも多くして、この2ページを編集しました。

今は、いろいろな手段であらゆる情報が入手できます。その中で、広報紙は、正確に行政から伝えたいこと・私たち市民が知っておきたい情報が分かりやすく市民に伝えられなければならない。

情報を共有し、市民と行政が共に考え信頼し共に行動するために、広報の役割は重要だと再認識しました。

毎月1日と15日は、広報の発行日です。私たち市民にとって大切な情報満載の「広報むこう」がたくさんの広告にまぎれて扱われないように願っています。(コラボレーション研究所)

コラボレーション研究所の活動内容や「市民協働促進基本方針」などは、市役所情報公開コーナー(本館1階)や、向日市ホームページ(<http://www.city.muko.kyoto.jp/>)でご覧になれます。